

編集後記

国立婦人教育会館のジャーナル『研究紀要』は、三つのねらいを追求します。

一つは、ジェンダーの視点からの、より水準の高い学問的な研究と活動実践とを同時に追求します。その意味で『研究紀要』は、すべての一般市民、内外の実践家・研究者に広く開かれています。第二に、女性学やジェンダー論、さらに生涯学習をめぐる研究や実践をすすめることにより、日本の学問研究のなかのカキネをくずしていくことです。日本の学問研究は、それぞれの分野にカキネが高くはりめぐらされ、一つの間からもう一つの間への交通が不便です。カキネを破り、交通を活発にすることは、同時にあらゆる学問をジェンダーの視点から見直すことにつながります。第三に、研究や活動の取組みを国際社会にむけて広く発信します。国内外の「研究と活動」の積極的な交流の媒体になることを追求します。

こうしたねらいをもつジャーナルの質的な向上をはかっていくために、投稿論文の公正な審査のありかたが問われます。いま、投稿者の氏名や所属を明らかにしない形で、一つの論文を少なくとも三名の査読者に審査してもらい、その審査結果（評価）とコメントをもとに慎重に検討し、採択を決定するという方法をとっています。修正を条件に再審査の対象になる論文も少なくありません。不採択の論文にも、できるかぎりていねいなコメントを付して返しています。

本号に寄せられた投稿は、論文14本、研究ノート8本、実践事例研究1本でした（英語での投稿は6本）。うち6本（再審査論文3本を含む）が採択となりました。編集委員会として、多くの方々の投稿意欲にこたえ、ジャーナルのさらなる内容充実をはかるためにも、公正な審査と的確なコメントのあり方を求めて努力したいと思います。

研究、実践、交流、情報発信の四つの働きを結びつけるジャーナルとして、『研究紀要』を皆さまと育てていきたい、そう願っています。

紀要委員会委員長 天野正子

国立婦人教育会館研究紀要 第2号

平成10年12月28日 発行

編集・発行 国立婦人教育会館

〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町大字菅谷728

TEL 0493-62-6711 FAX 0493-62-6720